



前は五感を通して自然を感じるにより心が癒されるという話をさせていただきました。今回は五感を使わずに、イメージを通して自然の癒しを実感することについて、いつもと少し趣向を変え、物語調で伝えさせていただきます。



園芸療法の実践

3

この物語は、とある病院の病室で半年間、共に入院生活を送ることになったミノルさんと豊さんという患者さんのお話です。

ミノルさんは窓側、豊さんは壁側のベッドを使っています。壁側の豊さんのベッドから外の風景は見えませんが、豊さんは外の風景や自然の変化をよく知っています。それは窓側の

イメージで感じる自然

でもらいます。

そこで豊さんが目にしたものは……今までの想像とかけ離れた風景でした。窓から見えたのは、渡り廊下

を行き交う人と、別の病棟のベージュがかった壁だけだったのです。その殺風景な景色を見つめながら、ミノルさんは半年もの間変化に富んだ自然の様子について、楽しそうに話をしてくれたのです。豊さんはその話にいつも引き込まれ、まるで自分がその場にいるか

ら戻ると、隣のベッドが空になっていました。ミノルさんは天国に旅立ったそうです。突然去ったミノルさんのことを思い、豊さんは何日も泣いて暮らしました。数日たち、豊さんは何日も外の様子を知らずにいたことに、ふと気づきました。そこで豊さんはナースに頼み、ベッドを窓の近くに移動し



イラスト いけや しほ

のように、ツツジの蜜を求めて飛び交うミツバチのブーンという音や、マリーゴールドのちよつと臭いにおいを思い出していたのです。

この物語を通して、実際には目

にしていけない自然を二人の男性がイメージを通して楽し

み、その営みが入院生活にいろいろを加えていることがお分かりいただけるかと思えます。園芸療法では、屋外での活動が困難となったり、五感を含めた身体機能が急激に衰える高齢者や終末医療の患者さんを対象に、過去の自然体験の思い出やそのイメージを引き出す手法が使われることがあります。



やまや ゆりこ「奥熱海療院 園芸療法士（アメリカ園芸療法協会認定）」

問い合わせ先 奥熱海療院 TEL 0558(79)1022